

園児の「たのしい!」「またやりたい!」がうれしいです

北海道教育大学附属旭川幼稚園

園長 佐藤 公文



左の写真は昨年秋、5歳児年長組が春に植えたサツマイモを収穫するところです。私が収穫方法の説明をしています。昨年は立派なサツマイモがたくさん収穫できました。そのサツマイモを薪や落ち葉の焚火で焼き芋にして、みんなでおいしく食べました。楽しいです。今年もやります。

幼稚園はお子さんが生まれて約3年過ぎてから入園します。保育園や認定こども園は1歳前後から入園するお子さんもいます。幼児期に人間の脳は成人の95%にまで大きくなるといわれています。人間の一生のなかで幼児期は特に大きく成長する時期といえるでしょう。家庭から離れて、幼児集団の幼稚園環境の中で色々な遊びを経験し、言葉のシャワーをたっぷり浴び、様々な刺激を受け、心も体も大きく育ちます。

そんな大切な幼児期に私たち幼児教育に携わる者は、“幼児期にしかできない経験”“幼児期に是非経験させたいこと”を常に考えています。日常の幼稚園生活で園児自らが「〇〇して遊びたい」と思えるような“遊びやすい環境”“遊びたくなる環境”を保育室、園庭、遊戯室に用意します。

冬の外遊びの中心は雪山遊びです。除雪のため重機が入ります。雪が積もった日は園庭の端に大きな雪山ができます。この雪山も遊びの環境として使います。高さ3m以上の大きな雪山は園児の遊び心を大きく刺激します。



砂場も外遊びの定番です。幼稚園にはなくてはならない環境で、春の雪解け後に砂場を整備します。早速、砂場あそびが始まります。夏になって、砂場に水が入ると、さらに砂場遊びの楽しさが増し、園児がやりたいことができるような材料や道具を準備します。



令和6年度も園児の皆さんが「たのしい!」「またやりたい!」と思えるような、幼稚園運営を進めたいと考えています。今年もよろしく願いいたします。